



特集

もっと増えるZEH

平成30年度ZEH関連施策スタート

〔後編〕

(出典) 環境共創イニシアチブ(SII)「ZEHビルダー、ZEHプランナー一覧」を一部編集

登録名称 (屋号)	登録 年度	登録 種別	ZEH ビルダー/ プランナー の種別	ZEH普及目標と実績 ＜自社が受注する住宅のうちZEH (Nearly ZEHを含む) が占める割合＞					連絡先		
				2016年度		2017年度		2018年度		2019年度	2020年度
				目標	実績	目標	実績	▲▼		▲▼	▲▼
〇〇工務店 ★★★★★	28	B	注	▲10%	▲20%	▲20%	▲34%	▲30%	▲40%	▲50%	052-911-6311 ホームページ

(参考資料) ZEHビルダー一覧に表紙された五つ星マーク(社名下にマークを表示)

国土交通省、経済産業省、環境省の三省連携のZEH(ゼッチ)関連事業がスタートした。5月には、五つ星のZEHビルダーやZEHプランナーが公表されて、新ZEHロードマップも出てきている。後編では、工業会の活動などを中心に動向を追ってみた。

五つ星マークを公開

経済産業省と環境省のZEH(「ゼロエネルギーハウスの略称」)施策の窓口となっている環境共創イニシアチブ(SII)では、5月21日、ZEHビルダーとZEHプランナー(「今年度から設計事務所をプランナーと呼ぶようになった」の一覧表において、スターマーク(星印)をつけるようになった。社名の下に黄色い星印がついているのがそれで、よく見ないと分からないような表示であるが、住宅事業者にとっては、良い宣伝材料となる表示で、各社のホームページで「五つ星ビルダーになりました」などのPRがはじまっている。

登録されている6610件のうち、五つ星の評価(★★★★★)を得たのは、364件で全体の5.5%である。

五つ星を取得する条件は、必ずしも目標を100%達成するというのではなく、以下の条件を満たしていると取得することができる。特にZEHの実績

ZEH施策

としては、50%以上の実績さえあれば五つ星ビルダーを取得することが可能となっている。

(評価の基準)
・ZEHビルダー実績報告を
している

・ZEHビルダー実績とZEH普及目標を自社ホームページで表示している
・ZEH又はニアリーZEHの建築実績を有している
・ZEH普及目標について、実績が目標を達成している。または50%以上を達成している
・ZEHビルダー実績報告においてUA値とエネルギー消費削減率の分布の報告がある

このようにある程度の実績があつて事務作業的にしっかりやっていたら、五つ星ZEHビルダーや五つ星ZEHプランナーになれるチャンスがある。ただしこの条件は5月に発表のあった平成29年度実績に関するものなので、平成30年度の実績が発表される来月5月にはもう少し条件が厳しくなる可能性がある。

ZEHロードマップシンポジウム ZEH協／各地のビルダーが発表

一般社団法人ZEH推進協会(略称・ZEH協)は、5月29日、すまい・るホール(東京文京区)において「産・官・学」による新・ZEHロードマップシンポジウムを開催した。

小山貴史 代表理事の開会挨拶によると、同協議会は、会員数187社、会員の年間供給棟数に



(一社) ZEH 推進協議会 代表理事 小山貴史 氏

して約6000棟規模の団体で、賛助会員のメーカー40社、自治体、地域団体、業界団体などの協力会員32社によって構成されている。国のZEH施策と相俟って昨年度に設立され、産業界・官界・学会の架け橋として活動を行っており、2017年度は国の委員会への参加やZEHセミナーやシンポジウムを開催し、国土交通省のサステナブル建築物等先導事業では、次世代住宅型「地域ビルダー次世代住宅先導プロジェクト」で150万円の補助で50棟分、省CO2「先導型「地域ビルダーLCCM住宅先導プロジェクト」で180万円の補助で200棟分の採択を受けている。今年度はZEHやLCCMセミナーの開催や、ZEHビルダー視察研修会、シンポジウムや委員会活動などを行っていく計画だ。

講演では「ZEHの現状とフ

ローアアップ委員会立ち上げの経緯・位置づけについて」と題して経済産業省資源エネルギー庁課長補佐田中宏和氏が講演。2015年度のZEHロードマップ委員会についての解説やZEHの普及状況や更なる普及に向けた課題についての講演を行った。平成28年度実績によると、まだ6割のビルダーがZEHの実績がなく、実績50%以上は7%と低い状況にある。要因として売電単価の下落があり自家発電による消費率を高めることが目標となっている。

続いての講演では「ZEHロードマップフォーアアップ委員会としまとめの解説」と題して、芝浦工業大学 建築学部 建築学科教授の秋元孝之氏が講演。ZEH化に関する課題の例や課題への対応の方向性について解説し、ZEHロードマップについては、政策目標の考え方や注文住宅や建売などの分野別の普及推進に向けた取組みについて解説した。2016年度にZEHビルダー目標を達成したのは約24%で、多雪地域や狭小地では課題があるものの、ZEHビルダー登録のうち、注文住宅全体の75.5%はZEHビルダーが



後半のパネルディスカッション

カバーしており、このうちZEHは11・2%、Nearly ZEHは4・4%の合計15・5%とZEH率は年々上昇している。今後の目標としては自家発電を増やすことや、電気自動車などを活用したZEH+（ゼッチプラス）を促進していくことがある。このZEH+には、更なる高断熱化（省エネ基準よりもマイナス25%）、HEMS、充電設備又は充放電設備が条件で補助金としては強化外皮基準で115万円の補助枠となっている。今年度からはまったZEH oriented（オリエンテッド）は、都市部狭小部での建設などを条件として、省エネ基

準よりもマイナス20%のみの条件とし、日照条件が悪いことなどを理由に再生可能エネルギーの設置の未導入を可能としている。来年度予算ではZEHの設計コンペを進めていくことを計画している。

休憩を挟んで後半では、「ZEH+における高度エネマネの展開」と題して、一般社団法人日本電機工業会HEMS専門委員会委員長北川晃一氏が講演。太陽光発電の自家消費を目的としてHEMSの目的や従来のパワーコンディショナーがZEHの要件から外されていることなどより詳しい設備の事情について講演した。

最後に「ZEH普及の課題と対応」と題してパネルディスカッションを開催。パネリストは、小山代表理事の他、寒冷地工務店代表として㈱リアルウッド（青森県）社長の須郷裕貴氏、都市部工務店代表として五光ハウジング㈱（神奈川県）社長の石山辰巳氏が参加。コーディネーターとして、日本建材・住宅設備産業協会 ZEH普及分科会委員の布井洋二氏と芝浦工大の秋元氏が行った。

ディスカッションでは各地域の

ビルダーの気候や条件にあったZEHの工夫が紹介された。

五光ハウジングでは、町田で市のZEH&LCCM住宅の建設にあたって、熱貫流率UA値に有利に働くように、窓を小さくする工夫を行った。とはいってもリビングの窓は標準的な寸法を用いており、狭小住宅なので通風を望めない居室や、その他の居室において偏西風の風の入口・出口を設け、通風計画をした上で、トイレの窓などを小さくする工夫をした。

リアルウッドでは、冬場の積雪量がZEHの妨げになっているという青森県の実情を踏まえて、屋根から落ちる雪が敷地面積上悪影響を与えないように下屋に雪を落とす工夫を行ってZEHを実現。青森県ではZEH普及委員会を発足しており、専門家や各組合の代表、銀行、電力会社、県の住宅課の関係者が委員として参加して、問題点の抽出（屋根形状の検討、性能向上の検討、お客さんへの提案方法）を議論している。

ドイツ在住の識者が講演

ZEH推進協議会は、こうした



環境政策研究者 西村健佑氏（ドイツ在住）

シンポジウムの他にも講演会を開催しており、去る5月28日には、ベルリンで欧州のエネルギー・産業政策の調査・通訳・翻訳や日独企業のビジネスコンサルタントを務めている西村健佑氏の来日に合わせて「進化するエネルギービジネス100%再生可能へ」ドイツの再生エネルギー政策と住宅のエネルギーの未来」と題した出版記念講演会を開催。ドイツでは再生エネルギーがFITの導入によって最も安価なエネルギーとなっており、柔軟で効率の良い自家消費型のビジネスやEUとドイツエネルギー対策をテーマとした講演が行われた。